

2024_0812「小諸市の”光害”（天体写真）」日々の理科 3658号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

天体写真の分野で、人工的な灯火の影響のことを「光害（こうがい）」と呼んでいます。今や、日本国内で完全に光害のない観測地はほとんどないと言って良いでしょう。関東屈指の暗い空を有する「北軽井沢」ですら、東に高崎市・前橋市、南に軽井沢町の灯火が肉眼でもわかるほどの明るさを感じます。

小諸郊外の観測地も「最悪」です。この地点は、北側には大きな街はなく、しかも浅間山遮っているのが、かなり暗い空です。しかし北天の星空は、一年中ほとんど変わりません。観測をしたいのは、主に南の空です。南の地平線に低く、関東地方では観測が難しい「カノープス」も、地形的にはこの場所から見えるはずでした。カノープスは、日本では冬にしか観測できませんが、小諸市の灯火が邪魔をして、見えませんでした。

今回も試しに南のそれにもカメラを向けてみましたが、やはりだめでした。小諸の街明かりは、微弱な恒星の光に比べてあまりにも強すぎるのです。それでも、右上にはかすかに「天の川」や「南斗六星（いて座）」も写っていました。空そのものは暗いという証拠です。

(2024年7月下旬／長野県小諸市)

